

# 弊社が専門紙に掲載されました

## Sierとユーザーの架け橋 「ロボット推進室」



寺内 宏室長

京二がロボットを次世代の柱とするために「ロボット推進室」を立ち上げたのが3年前。現在、益の高い案件を持つロボットを含めた自動化・省力化分野の売上高は約4.5億円に成長している。例えば、自動化に「ロボットを含めシステム構築の実績はあまりなく、機軸しながら始めたロボット推進室の寺内室長は話すが、今「Sierとユーザーを」に徹し自ら「Sier」を推進する。寺内室長は話すが、今「Sierとユーザーを」に徹し自ら「Sier」を推進する。寺内室長は話すが、今「Sierとユーザーを」に徹し自ら「Sier」を推進する。

### 京二（東京都・千代田区）

寺内室長は自動化提案を通じて「ニーズを開く」として、食糧界で実績を積んでいるが、寺内室長は「中小企業は『業種に絞るつもりはない』という。役にやりたい」とし、ロボットを含む自動化システムはまだまだあり、提案できる部分が多いから考えた。



自動化提案でロボットを納入した製麺工場

本社：東京都千代田区九段北4-3-24  
電話：03-32264-5240  
代表者：井宗久社長  
従業員：50人  
創業：1946年  
年商：約56億円

日本産機新聞 2019年12月5日掲載記事

### 座標軸



井口さん

#### チャンスあり

▽：「人口減少や新型コロナウイルス対策として、今後もロボット導入の動きが広がる」とロボットの需要増を見据えるのは、京二（東京都千代田区）

社長の井口宗久さん。  
▽：同社はロボット販売促進の専門組織「ロボット推進室」を2016年に設置。従来の販売先は機械加工業だったが、同組織を通じて「食品や住宅設備の分野にも広げられた」と手応えを話す。  
▽：今後のターゲットに定めるのが物流分野。通販市場の成長で物流施設が増える中、「旧来の施設は導入のチャンスがある」と見えて需要を取り込む。

日刊工業新聞 2020年6月24日掲載記事